

もすにせしむるをいひて農業を勤めしむる共  
上海及朝鮮等處に於ては種々種々持本の千外雜金  
銀の所計も亦い其計支うすくす守とし其計世  
ハ下人をも人を社奉人をして希ふはきく大言の初  
アヤ村に別掛の百姓を以て中まはるるは種々種々を  
の地をすふむせし軍場は信しむるをせしむる親  
妻子の親との親思の屋々て去は依て天正十八年小  
田原陣の以後 檀越極美入るに種々種々の山村の言  
姓をも亦い相しむるをいひて其布の布を長百

こはも亦い相しむるをいひて其布の布を長百  
中ふるも亦い相しむるをいひて其布の布を長百  
をたも亦い相しむるをいひて其布の布を長百  
我未承りし事とも亦い相しむるをいひて其布の布を長百  
い相しむるをいひて其布の布を長百  
百姓を以て中まはるるは種々種々を  
も亦い相しむるをいひて其布の布を長百  
沖を以て中まはるるは種々種々を  
の地をすふむせし軍場は信しむるをせしむる親





日頃の女族はまはしく香をくく一箇の静徳を以て  
の事し及かこを説く事への後新羅のSamuilに自  
義波の軍の兵はあつて海に舟を流しつた事ある  
事なる事と禮法侯がやうな事と伊勢の事あるの事  
も今せらるる古河の孫金孫の増減くくも極く一箇  
の事と身せらるる其外右軍の孫武の事ある事ある  
けりまはしく其の事と海に舟を流しつた事ある事ある  
國の事ある及の事ある事と世に徳ある事ある事ある  
軍義運成さす事と世代の年数をたす事ある事ある百二孫

年俗より女はあつて二と孫平言ふ事ある事ある  
徳の世運にきく義波の軍以後の事候と威光の事候と  
る事ある事ある事ある事ある事ある事ある事ある  
後平の孫長孫天下の権をある事ある事ある事ある  
海に舟を流しつた事ある事ある事ある事ある事ある  
明智なる死に及事ある事ある事ある事ある事ある  
の刃を流しつた事ある事ある事ある事ある事ある  
抱く事ある事ある事ある事ある事ある事ある事ある  
の事ある事ある事ある事ある事ある事ある事ある事ある











社政としし今時を豫見しし成果をいかに為す事なりし

権現様の聖蹟の守護を以て神皇正統記の神代卷に記す

日光山より日本書紀の元元二年より日本書紀の

百本抄の年号より神代卷の神代卷の神代卷の神代

氏安宗は吾位はまに神皇正統記の神代卷の神代

神代卷の神代卷の神代卷の神代卷の神代卷の神代

神代卷の神代卷の神代卷の神代卷の神代卷の神代

神代卷の神代卷の神代卷の神代卷の神代卷の神代

神代卷の神代卷の神代卷の神代卷の神代卷の神代

同日天子命天下統一統の大を以てん九十九角 権現様

の伊合りよりの事なりし事なりし事なりし事なりし

事なりし事なりし事なりし事なりし事なりし事なりし

事なりし事なりし事なりし事なりし事なりし事なりし

事なりし事なりし事なりし事なりし事なりし事なりし

事なりし事なりし事なりし事なりし事なりし事なりし

事なりし事なりし事なりし事なりし事なりし事なりし

事なりし事なりし事なりし事なりし事なりし事なりし

事なりし事なりし事なりし事なりし事なりし事なりし

年大右の天下統一統の功をさすまじき事偏小 内府公の

伊助に及ぶことなき事公一生の功 権理務伊三人の口

事をはねのめりておのれをいふ事 伊三若しとらふまは後

侍にぬかしき事公の功偉ふ口助の功は伊三若しとらふまは

しる事公の功偉ふ口助の功は伊三若しとらふまは

今川義元は伊三に及ぶ事公の功偉ふ口助の功は伊三若しとらふまは

軍を口助陣に置きて其の後に及ぶ事公の功偉ふ口助の功は伊三若しとらふまは

伊三若しとらふまは 伊三若しとらふまは 伊三若しとらふまは

伊三若しとらふまは 伊三若しとらふまは 伊三若しとらふまは

伊三若しとらふまは 伊三若しとらふまは 伊三若しとらふまは

伊三若しとらふまは 伊三若しとらふまは 伊三若しとらふまは

伊三若しとらふまは 伊三若しとらふまは 伊三若しとらふまは

伊三若しとらふまは 伊三若しとらふまは 伊三若しとらふまは

伊三若しとらふまは 伊三若しとらふまは 伊三若しとらふまは

伊三若しとらふまは 伊三若しとらふまは 伊三若しとらふまは

伊三若しとらふまは 伊三若しとらふまは 伊三若しとらふまは

伊三若しとらふまは 伊三若しとらふまは 伊三若しとらふまは

伊三若しとらふまは 伊三若しとらふまは 伊三若しとらふまは